

道民カレッジ主催講座
令和5年第6回インターネット講座

小さな発見 街歩き
～札幌～

資 料



街歩き研究家
和田 哲 氏

道民カレッジ事務局

今は街歩き研究家としていろんなところでお話させていただいたり あとは本を書いたりメディアで街の歴史を説明したりしています。

街歩きに興味をもったきっかけ

私、電車通りで生まれ育ったんですけれども 家の前へ電車が走っているのどこに出かけるにもまず電車に乗るんですよ。5歳の頃に東本願寺前の停留所の辺りが電車通りが2度緩くカーブしているのが非常に気になったんです。碁盤の目の真中に住んでいたの道路というのは全てまっすぐで直角に交わっているものだと思っていたんですよ。それが条丁目の中にああいう中途半端なカーブがある理由が分からなくて、周りの大人に質問したんですけれどもとうとう分からずにですね 今思えばあれがきっかけだったような気がします。東京ってすごくやっぱり歴史のあるところなんで面白かったんですよ。札幌に戻ってきて道路も真っすぐだし歴史も短いしあまり面白くないところだな ぐらいに最初思っていたんです。その時にその5歳の頃の疑問を思い出して試しに掘り返してみたら色々面白いことが分かってきたのでそれからハマっていきました

東本願寺前はなぜ曲がっている？

まず向きが違う 碁盤の目の向きが違うんですよ
上空から見た地図をこう色分けするとかなりはっきり分かれていまして、札幌の中心部とあと西7丁目付近では南7条からそれから西の方に行くと南3条からこの山鼻に入るんですけれども山鼻の碁盤の目と都心の碁盤の目の向きが違うんですよ。都心の碁盤の目は創成川に合わせて作ったんです。
しかし山鼻の碁盤の目は何に合わせて作ったかと言うと明治初期の磁石の北に合わせているんですよ。よく巷で北極星に合わせてたんじゃないかとか いろんなこと言われているんです。
アメリカの軍事目的のサイトでその時代時代の磁北の向きを調べられるサイトがあるんです。磁北って場所や時代によってだいぶ違うんですよ。明治9年の札幌の磁北を調べるとまさに今の山鼻の道路の向きなんです。これは磁北で間違いないだろうと。じゃあなぜその隣り合っているのに合わせなかったのかというのはとうとうはっきりとしたことは分からないんです。

北1条通りの道路幅が違うのはなぜ？

あの実は道庁の前身の開拓使の敷地の縁だったことと関係しているんですよ。
開拓使の庁舎というのは今の道庁、赤レンガ庁舎のちょっと北側にあったんですけれども その敷地がとんでもなく広くて、東は駅前通りまで面していたんです。南は北1条まで面していたんですよ。北は今のJRの線路で西は今の植物園の手前まであったんです
その札幌の碁盤の目の道路は基本道幅が11間に統一されていたんですが その開拓使の庁舎を囲む道路だけは20間あったんですよ。
倍近い広さだったんです。今で言うと36m ぐらいなんです。
実はこの36m という道幅がまさにその北1条通りが広がっている部分の道幅なんです。一方駅前通りも今36m なんです。だから駅前通りと北1条の広い部分はその開拓使時代の本庁舎の周りの道路の幅をそのまま残しているんですよ。

北1条通りはその本庁舎に面していない西3丁目より東と西8丁目から西は狭いまななんですけれども 駅前通りは後にすすきのまで道幅が広がりました。まだ車なんてほとんどなかった時代から今と全く同じ道幅だったんです。元々そのなぜ幅を広くしたかというのはその開拓使を外敵から守るためなんです。

広い開拓使の敷地なんですけれども 北と西については比較的攻めにくい構造だったんですよ。北側というのは湿地帯で そして西側というのはたくさんの川や泉があったんですよね。ですからそこから敵が攻めてくるといことはあまり考えにくかったわけなんです。

問題は南と東をどうするかだったんですよね。

まだまだその開拓使を作った頃というのは不平士族もいましたし、まだまだ油断がならない時期だったわけなんです。ですからの広い道路を作ることでお堀りではないんですけども例えば外敵が攻めてきた時になるべく場所が開けていた方がいいわけなんですよ。建物の影とかに隠れにくいようにした方がいいんです。それでそういうわざと幅の広い道路を作ったと考えられています。

西が駅前通りから8丁目通りまで、そして北が北6条から北1条までなので今の道庁の敷地の大体5倍ぐらいですかね まさにお城のように広がったんですよね。

広い敷地の中に真ん中にその開拓使の庁舎があったんですけども 開拓使の庁舎は今の庁舎よりも小さいんですよね。そんな広い敷地の中に真ん中にポツンと小さな庁舎がある状態だったんです

だからそんな広い敷地は必要ないはずなんですけども それもやはり二重三重のその防御のためなんですよね。塀の中に間違っても外敵が侵入してきてもそこでもう丸裸になってしまうわけなんです。周りに隠れるところがないんですよね。だから防ぐ方からは有利なんです。

アンパン道路の由来

昔 豊平町という大きな町があったんです。札幌市と合併する前のですね 今の豊平区清田区南区に相当するんですけども元々は豊平村、平岸村、月サップ村という3つの村だったんです。それが明治の31年に1つになって豊平村という大きな村になるんですよね。やがて人口が増えて明治34年には豊平町になるんですけどもその後異変が起こるのが明治43年なんです

その豊平町の中の1番開けていた豊平地区だけが旧豊平村だけが札幌市に併合されたんです。当時は市街地と農村はその行政が別である方がいいという考え方があったようなんですよね。ですから市街地になったから札幌市の行政に入った方がいいということになったんです 当時札幌区ですけどね。残ったのが旧平岸村と旧月サップ村なんです。どちらもとても広い村なんです 平岸村というのは上山系中山峠まで平岸村なんですよね。月サップ村というのはあの清田の方まで全部月サップ村なんですよ

ですからどちらも歴史もありますし誇りもあったわけなんです。でどっちに新しい豊平町役場が置かれるかというのが 旧平岸村の人も旧月サップ村の人も非常に注目したんです。

結局月サップ村に置かれたんですよね。そうすると平岸の人たちが怒ったわけなんですよ。当時はとにかく月寒と平岸というのは今でも土地の段差がありますけれども 道路がなかったのでお互い行き来するとしたら1回北海学園ぐらいまで戻らないといけなかったんですよね。平岸市街地から国道36号線に入るには不便だと 平岸の人たちはもう分村して独立するぞと怒ったそうなんです。それで心を痛めたのが当時の豊平町長で、じゃ道路を作ろうと。平岸の人が役場に気軽に来れるように道路を作ろう、それで月寒に駐屯していた陸軍の兵隊さんたちに手伝ってもらって道路を切り開いたわけです。

それがアンパン道路なんですよね。なぜアンパン道路って言われるかということとその工事に兵隊さんたちに地元のお菓子屋さんの協力を得てアンパンを間食として支給したんですよ。だからアンパンを食べながら

作った道路ということでアンパン道路になったです。その時の名残りが月寒アンパンなんですけれども 普通のアンパンとちょっと違いますよね。当時はいくつかのお菓子屋さんでそれを作ったそうなんです、そのお菓子屋さんはアンパンというのを見たことがなかったんです。だから文献だけで作ったんですよね。独自の解釈で作るとああいうちょっと月餅のようなパンとは違う独特のお菓子になったんです。

市電を塗り替える クラウドファンディング

2021年にM101号という電車が引退したんですよね。1両だけ昔のツートンカラーで走っていたんですよ。昔の電車はほとんどがあの色だったので札幌市民にとっては当たり前の風景だったんですがそれがなくなってしまった時に沿線住民としてもすごい寂しさを感じたんです。私だけではなくてそう思っていた方がたくさんいらっしゃって、やっぱりあの色の電車がなくて寂しいよね ということになったんですよね。実は札幌には古い電車がまだ10両以上残っているんですよ。昭和30年代に作られた電車で昔は当然そのツートンカラーに塗られていたんですが今は現代風の緑色に塗られていたり広告ラッピングされていたりするんですよ。その電車の引退がそろそろ進んできていますので最後に1両だけでも昔のように塗替えたいね という話がいろんなところでありまして、それで市交通事業振興公社さんにも相談してクラウドファンディングを行うことになったんです。

基本の電車の色を塗り替えて引退まで営業運転として走らせようということだったんですけれども当然その広告ラッピングと同じ扱いになるわけですよ。だから塗り替える費用の他にもその広告ラッピングに相当する1ヶ月分の使用料が引退まで何ヶ月分かかかるわけです。ですからかなりの金額が必要になりますので、クラウドファンディングで電車ファンの人やあと遠方の鉄道ファンの人それから地域の方々に広く呼びかけることにしたんです。これを5月のゴールデンウィーク明けから6月末までやったんですけれども蓋を開けてみるともう目標額以上の金額のご協力をいただきまして皆さんの熱量を感じましたね。そうですね やっぱり沿線住民の方からあれが走り始めると懐かしいね 電車ってやっぱりこういう色だったよね という声をたくさん頂いています。それから今でももう走り始めて3ヶ月ぐらい経つんですけれども やっぱり沿道でカメラを構えてる方がたくさんいらっしゃったり やっぱりこれは多くの人に愛されている色だったんだなということを実感しています。今札幌の都の風景が大きく変わろうとしていますけれども そんなどんなに街の風景や建物が変わっていても あの昔と同じ色の電車が走っていればここは間違いなく自分たちの街だとそして自分のその青春時代の思い出 子供の頃の思い出をその電車を通して皆さん 思い出することができると思うんですよ。だから路面電車というのは実用的な交通機関というだけではなくて街の景観を演出したり人々のその記憶と結びついたりするそういう存在だと思うんですよ。

今回その後半の方ですね、高齢者の方からお問い合わせをいただいたんですよ。私はインターネットが使えないんだけどどうやったらご協力できますかと お葉書も頂いたことがありました。それがすごく嬉しかったですね 普段クラウドファンディングということに馴染みのない地元の方たちの間にこんなに熱い思いがあったんだということを改めて知らされました。

今後の夢

そうですね もっともっと若い方も含めて子供たちも含めていろんな方に身近な歴史の楽しさを知っていただきたいということもありますし あとはこの街の歴史をこれからの街作りに生かしていくためにもっともっと色々な人と交流してコラボしていきたいなと考えています。